■正宗得三郎　　色彩点描の画家として生涯，文章家としても活動，富岡鉄斎に傾倒して世に知らしめた。正宗白鳥の弟。
まさむねとくさぶろう
岩倉具視没・1883＝　　岡山県和気郡伊里村(備前市)で，材木商の旧家正宗浦二の三男に生まれる。母美彌は多度津藩儒の娘。

経済的に恵まれた家庭で，曾祖父が文雅を好んで画家との交流も多かったことから，長兄忠夫(白鳥)はのちに文学者，次兄敦夫はのちに国文学者となるような文化的環境のなか，幼時より絵画に触れて育ち，

帝国憲法発布1889＝ 6歳：寺子屋のような小学校に入り，

大本教・・・1892＝ 9歳：
協和高等小学校に進んで，
日清戦争始・1894＝11歳：

子規句歌革新1898＝15歳：卒業。

画家を志望するようになるが，父の許しが得られず，長兄が学費を補助してくれることになり，
田中正造直訴1901＝18歳：
教科書疑獄・1902＝19歳：上京して，寺崎広業の天籟画塾に入り，日本画を学ぶが，やがて洋画を志し，東京美術学校西洋画科選科に入学。同級に山本鼎らがいた。美術学校風になじまなかったが，
日比谷公園・1903＝20歳：天才画家青木繁の作品に魅了され，坂本繁二郎，熊谷守一らと青木の周りに集まる。
日露戦争始・1904＝21歳：日露戦争に出征。山本鼎，森田恒友，坂本繁二郎と交友をもつ。
日露戦争終・1905＝22歳：
満鉄発足・・1906＝23歳：戦役の功により叙勲。この頃，森田恒友と谷中の寺に同居後，千駄木の岩田方に青木繁と同居。
韓国反日暴動1907＝24歳：(出征したため一年遅れて)卒業。白馬会に出品し，洋画家として出発。
ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝25歳：{文章世界}口絵，{早稲田文学}「絵画展覧会合評」評者に加わる。
伊藤博文暗殺1909＝26歳：白馬会に出品。信州松本地力に赴いて写生し，**_文展に出品し，初入選。**
韓国併合・・1910＝27歳：結婚。白馬会・文展に出品。***高村光太郎経営の{琅?洞}で初の個展，{読売新聞}に島村抱月の評が載る。**
大逆事件判決1911＝28歳：白馬会解散。青木病死に衝撃受け追悼文。{琅?洞}で小品画会。**_多数の展覧会への出品と，{読売新聞}，**
明治天皇没・1912＝29歳：**_{早稲田文学}などへ寄稿が始まる。**
大正政変・・1913＝30歳：***太平洋画会展の「日比谷の郷濁」は宮内省買上げ。二科会設置運動に加わり，**
第一次大戦始1914＝31歳：**_会員となる。森田恒友と渡欧し，パリへ向う。山本鼎に刺激受け，印象派やセザンヌの作品に驚嘆。第一次大戦で送金が止まり，美術家は生活費を大使館より借りて暮す。パリはドイツ軍に包囲され，戦火避けて，島崎藤村とリモージュ移り，{東京朝日新聞}にリモージュだより，単独パリに戻り，のち藤村と再会。**
21ヶ条要求・1915＝32歳：翌年にかけ，リヨンに滞在し，モネの「海」を模写。**_滞欧作を二科展へ出品，**
民本主義・・1916＝33歳：パリに戻り，**_アンリ・マティスを訪ねる。ロンドン経て，藤村と帰国。二科展に滞欧作を特別陳列。諸紙誌に滞欧随想。美術誌には絵画論。フランスとの風土の違いからくる停滞もなく，国内旅行始まる。**
ロシア革命・1917＝34歳：「画家と巴里」。**_以後毎年二科展に出品し，随時他の展覧会にも。{中央公論}{中央美術}ほか諸誌に随想。**
本格政党内閣1918＝35歳：白木屋洋画展覧会に石井柏亭と共に特別出品。国内旅行多数。東中野にアトリエを新築し転居。
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝36歳：***作風に迷い生じたのか，南画への接近始まり，京都に行き，初めて富岡鉄斎に会い，以後心酔。**
原敬首相暗殺1921＝38歳：柏亭・与謝野夫妻らの発起で，銀座資生堂で個展後，**_再渡仏。一時病臥後，小出楢重らとカーニュ滞在。**
水平社結成・1922＝39歳：パリに帰る。木下杢太郎とドイツ，オーストリアを旅行。{(第2次)明星}にカーニュ通信。
関東大震災・1923＝40歳：**_柏亭とサロン・ドートンヌに交渉，日本部設置，自ら含め日本人作品特別陳列。柏亭とイタリア旅行し，**
護憲三派圧勝1924＝41歳：鉄斎が急逝し，追悼文**_マティスに再会，モネを訪問して，帰国。二科展に滞欧作を多数出品。**
治安維持法・1925＝42歳：「マチス」。文化学院美術科で指導始め，生徒らと写生旅行(翌年も)。以後，{アトリエ}ほかに絵と随想。
円本時代始・1926＝43歳：成城学園で教鞭。日仏会館での{滞仏邦人巴里絵画展}に出品。
金融恐慌・・1927＝44歳：満鉄の招きで，有島生馬と，満州各地と天津・北京を訪れ，写生。
共産党事件・1928＝45歳：以後随想は，年一つ程度。
世界恐慌・・1929＝46歳：「現代仏蘭西名家画集」。
海軍軍縮条約1930＝47歳：協会賞。**_二科展で，多くの会員が嫌う長谷川利行の作品を，有島・熊谷とともに，強く推薦。**
満州事変・・1931＝48歳：この年，二科会で多数の会員が脱退するも，残って出品続ける。
五一五事件・1932＝49歳：成城学園退任。
帝人疑獄事件1934＝51歳：上野松坂屋で作品展。
日中戦争始・1937＝54歳：
健保+総動員 1938＝55歳：個展開催。**_{アトリエ}臨時増刊富岡鉄斎に「鉄斎翁の遺業」「鉄斎翁の作品」。**
第二次大戦始1939＝56歳：個展，洋画鑑賞会開催。
大政翼賛会・1940＝57歳：紀元二千六百年奉祝美術展覧会委員。
日米開戦・・1941＝58歳：文化学院美術科の指導終わる。日本画展開催。
・・・・・・1942＝59歳：油絵展。**_富岡鉄斎遺作展に尽力し，諸家の蔵品が陳列される。「富岡鉄斎」刊行。**
創価学会検挙1943＝60歳：油絵展。新文展審査員。二科展で還暦記念特別陳列。「正宗得三郎画集」「ふる里」刊行。
年金+総武装 1944＝61歳：「美術展覧会取扱要綱」で日本美術報国会以外は認められず，**_二科会解消。戦時特別文展に出品。**
敗戦・・・・1945＝62歳：空襲でアトリエと作品を焼失。妻と長野県下伊那郡三穂村伊豆木に疎開。敗戦後，自由文化振興会(静話会)に参加。柏亭らと全信州美術展覧会審査員。伊豆木の風景気に入るも，病弱な妻を抱えて心細く，
新憲法公布・1946＝63歳：第一回日展に出品。
新憲法施行・1947＝64歳：**_熊谷守一らと第二紀会を創立，以後長老として重きなす。坂本繁二郎らと青木繁記念碑建立の発起者。**
極東裁判決・1948＝65歳：第1回長野美術展審査員。東京へ転居。**_以後没するまで，毎年第二紀会展に出品。**
三大事件・・1949＝66歳：府中に住む。扁桃腺に冒され危篤になるも，医者になった次男の手術で完治。
独立回復・・1951＝68歳：健康を回復し，写生旅行に出かけ，個展開催。**_鉄斎研究に没頭する。**
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝69歳：個展開催。
TV放送始・・1953＝70歳：個展開催。
自衛隊発足・1954＝71歳：**_東京作家クラブの提唱で設立された「(中里介山)大菩薩峠建碑会」の顧問となり，**
55年体制始・1955＝72歳：**_新版「大菩薩峠」に挿絵。**
国連加盟・・1956＝73歳：新作展。府中市文化財専門委員会委員。**_武州御獄に建てられた大菩薩峠記念碑の碑文を揮毫。**

美智子妃・・1959＝76歳：新作展。
安保闘争・・1960＝77歳：
ｲﾀｲｲﾀｲ病始・1961＝78歳：**_樋口一葉の肖像画を描き，台東区立一葉記念館に寄贈。病臥し，長年研究を重ねてきた「鉄斎」刊行後，**
全国総合計画1962＝79歳：**_没した。**

村山鎮雄「画家正宗得三郎の生涯」，「没年日本史人物事典」，